藤本さん（菊陽町）グランプリ

第76回県美展　丁寧な立体造形評価

藤本美空さんの彫刻「Self−reliance」（60センチ×60センチ×200センチ、アクリル樹脂）

第76回県美展（県美術協会主催）の一般公募作品の審査があり、グランプリの県美大賞に、崇城大芸術学部美術学科3年、藤本美空さん(20)＝菊陽町＝の彫刻「Self−reliance」を選んだ。

「自立」という意味の受賞作は、裸の若い女性ののびやかな表情やしぐさで、事をなし遂げた後の達成感を表現した。審査では「丁寧に立体造形を重ね、主題に対する一途で素直な思いが表現されている」と評価された。

県美展は、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、デザインの6部門。一般は132人から135点が寄せられ、会友も含め入賞・入選に186点が選ばれた。

作品展は9月7〜12日、県立美術館本館（洋画）と分館（日本画・版画・彫刻・工芸・デザイン）で開かれる。新型コロナウイルス感染拡大のため表彰式は中止する。（魚住有佳）

入賞・入選者（敬称略）

【日本画】▽協会賞　ヘラット・ムデイヤンセラゲ・ニルミニ▽県知事賞　鬼木莉歩▽熊日賞　池田絵菜▽奨励賞　原田佑実子、塩井純子▽努力賞　有働恭子、黒田順子▽会友賞　中村妃菜▽一般入選　小島憲二郎、武富誠一、西村淳子、村崎英子、山元秀記、久原恵美子、山﨑秋美、藤木虹羽、後藤永遠、岩永恵里▽会友入選　戸塚智子、岸部孝子、村上良子、上野弘一、古賀洋子、片岡雪子、井芹多津代、石川美由紀

【洋画】▽協会賞　下條久美子▽熊本市賞　岩崎京子▽県美術家連盟賞　有吉宏朗▽KKT賞　中山寛▽KAB賞　谷口琳▽奨励賞一席　深田海波▽同二席　佐藤昭▽同三席　福井由紀▽努力賞　釜賀猛、眞嶋美登里、福永真希、山本司、吉川博文▽会友賞　冨田耕平、松岡洋二、甲斐龍子、金井拓▽会友推挙　下條久美子、岩崎京子、福井由紀、眞嶋美登里▽会員推挙　冨田耕平、松岡洋二、甲斐龍子、金井拓、中島由紀子▽一般入選　赤塚真理子、井上洋子、今井和美、岩下加代、上田恵麗、上田雅絵、上村祥浩、江口充代、小田明実、小山田美明、勝俣佑菜、木下睦夫、木村茂樹、国本英之、倉岡杏佳、古閑凜、坂下由紀子、志垣眞理子、志水弘毅、庄野通、竹屋純子、塚本隆弘、寺本ゆう子、中島一男、永杉まどか、中村孝善、中山栞、西山邦子、野満天、粂田一男、廣瀬恵子、藤本まなみ、松村盛仁、松本裕太、三池勲、水町優花、宮島歩花、宮本かすみ、本山和一、森田初男、山田穂積、山本妃紗、吉川義隆、吉本喜代子▽会友入選　荒木宣男、井上彬、井上あや、井上千鶴子、今秋俵治、岩井尚子、内田葉子、有働友明、遠藤美穂子、大内絵里奈、大塚厚子、小笠原恵子、甲斐敬彦、河上和正、北山明美、工藤勇二、舌間年子、杉村喜久江、杉本多鶴子、蘓畑節子、岳中耐夫、中島由紀子、永田いづみ、中野修、野中正春、馬場暁子、林田静枝、平尾久二子、平田尚子、福島露子、福田多恵子、福原邦彦、藤井洋、星子喜代美、丸目格、吉永修

【版画】▽協会賞　木渕渡▽県立美術館友の会賞　清田憲男▽一般入選　高野正子、中山寛▽会友入選　桐原弘子

【彫刻】▽県美大賞　藤本美空▽県文化協会賞　丸山登▽奨励賞　藤山深諦、大里祥実▽努力賞　山田唯乃、松本幸晟▽会友推挙　藤山深諦▽一般入選　北野さくら、春木駿太朗、石本彩也伽、野田薫、徳永直、内村隼、久野道博、福島晃、和泉舞桜、田中章、木村綾花

【工芸】▽協会賞　小串照彦▽県伝統工芸館賞　吉村くるみ▽FMK賞　黒田由紀誉▽奨励賞　蔵野葉、半代千加子▽努力賞　山本保良、木村順子▽会友賞　中川由紀子▽会友推挙　黒田由紀誉、三嶋裕二▽会員推挙　陣内里美▽一般入選　三嶋裕二、植田修二、阿蘇品侑奈、眞鍋胡春、乙益健一、大野典子、中村伸也、竹下克己、松下良太郎、加藤惠子

【デザイン】▽協会賞　日高洵允▽RKK賞　栗川詩加▽TKU賞　大瀬良杏樹▽奨励賞　三國潔香▽努力賞　西﨑澪▽会友賞　松野郷子▽会員推挙　松野郷子▽一般入選　三澤知世（連作）、東いろは（連作）、中川愛美花、高木優光（連作）、森山大、吉井優作、岩永菖、木村真琴、土佐華純、佐藤廉汰

人ひと

県美大賞を受賞した　藤本（ふじもと）　美空（みく）さん

初挑戦の等身像で、大賞を射止めた。「公募展への出品も初めて。完成が目標だったので、まさか受賞するとは思わなかった」と屈託なく笑う。

自立した理想の女性を表現した作品は、何事も諦めずにエネルギッシュにやり遂げていく姿を形にした。「私が飽きっぽくて、長続きしないから」と謙遜するが、自然でリアルな人体を追求する過程では「体の奥の筋肉や骨格まで、めまいがするほど観察した」。

コロナ禍で大学に行けずに制作が2カ月ほど中断。途中で集中力が切れて出品を断念しかけたが、恩師や友人の助言や励ましで搬入日当日に完成させた。

菊陽町出身。絵が好きで第二高美術科に進んだが、同級生らの描写力に圧倒され、進路を後悔した。転機は高2で制作したミロのビーナスの模刻。先生や友人から褒められ、「やれるかも」と自信が芽生えた。

崇城大に入学したのは彫刻制作がしっかりできるとの評判を聞いたため。「一番身近なモチーフだから」と、一貫して女性の人体と向き合ってきた。

彫刻の魅力は、直接手で制作でき、鑑賞者も360度から味わうことができるところだという。「作り手の温かみや気持ちが作品に残る気がする。それが見る人にも伝わるとうれしい」

卒業後の進路に悩んでいるが、彫刻は続けるつもりだ。「想像が膨らみ、多様な受けとめ方ができる作品を作りたい」と澄んだまなざしで語る。

20歳。音楽が好きで、制作時も聴く。両親と弟妹の5人暮らし。（魚住有佳）